



PORSCHE

2. Mar. 2018
Vol.19/18

持続可能な物流輸送によって CO2 排出量を削減

「環境にやさしい鉄道」による船積港までの輸送

ポルシェ AG (本社：ドイツ、シュトゥットガルト 社長：オリバー・ブルーメ) の車両は、責任ある持続可能な活動のために、「環境にやさしい鉄道」での輸送を行います。2018年1月1日以降、完成車は、コーンヴェストハイムとライプツィヒの積込み駅から再生可能なグリーンエネルギーによって鉄道輸送されています。ポルシェは、鉄道による物流輸送を、完全にカーボンニュートラルなプロセスに転換します。これによって、物流業務による年間の CO2 排出量を 3% 削減し、気候に有害な CO2 の発生を 6,000 トン以上低減します。

「熟考された資源の使用と、環境に配慮したエネルギー効率の高い活動は、ポルシェの企業戦略にしっかりと根付いています。鉄道輸送によるグリーンエネルギーへの移行は、カーボンニュートラルな生産への論理的ステップであり、さらなるマイルストンとなります」とポルシェ AG のロジスティクスおよびプロダクションコントロール担当副社長のオリバー・ブロンダーは述べています。ポルシェは、今年1年を通して、カーボンニュートラルな鉄道輸送をさらに拡張する計画を立てています。ブレーマーハーフェンの船積港とコーンヴェストハイムを連絡することによって、鉄道輸送される車両の割合が約45%増加します。これは、従来の大型トラックによる輸送を抑え、気候に有害な CO2 を、年間さらに 650 トン削減することにつながります。

ポルシェは、2017年1月1日以降、全ての拠点で、風力、水力、および太陽光によるグリーンエネルギーを利用しておおり、さまざまなエネルギー源のトランスペアレントな記録が可能になっています。2020年以降、ツッフェンハウゼンの主要工場の熱供給をバイオガスに転換し、さらに年間 5,000 トンの CO2 を削減します。ポルシェは、拠点とサプライヤーの間の物流にも環境にやさしい輸送手段を採用しています。現在、シュトゥットガルト周辺の道路では、天然ガスで駆動する大型トラック 3 台を走行し、市内で年間約 119 トンの CO2 を削減しています。CNG (圧縮天然ガス) を搭載した車両は、従来のトラックと比較して CO2 排出量を最大 20%、粒子状物質を約 80%、CO を 90% 抑えます。

<本件に関する読者からのお問い合わせ先>
ポルシェ カスタマーケアセンター 0120-846-911
ポルシェ ホームページ <http://www.porsche.com/japan/>